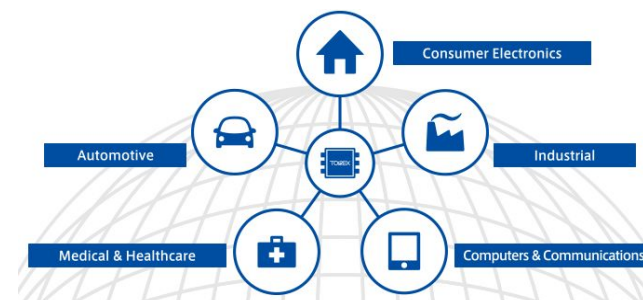


第22期（2017年3月期） 決算説明資料

2017年5月17日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている
あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2017年3月期 業績

2

2018年3月期 業績予想

3

株主還元

Appendix

2017年3月期 業績

第1 四半期

- ・フェニテック子会社化で事業規模拡大
- ・フェニテックは新工場の立上げ途上のため減益
- ・子会社化に伴う負のれん発生益を計上

第2 四半期

- ・上期累計実績はほぼ予想水準
- ・第2四半期でさらに円高の影響が拡大
- ・フェニテックは受注好転の兆しだが寄与せず

第3 四半期

- ・第3四半期累計実績は想定をやや上回る
- ・旧トレックスは単価低下を数量増で補えず
- ・フェニテックは業績好転の方向

- ▶ 2017年度3月期実績は、想定をやや上回る
- ▶ 旧トレックスは、単価低下を数量増で補えず
- ▶ フェニテックは、受注回復で業績好転

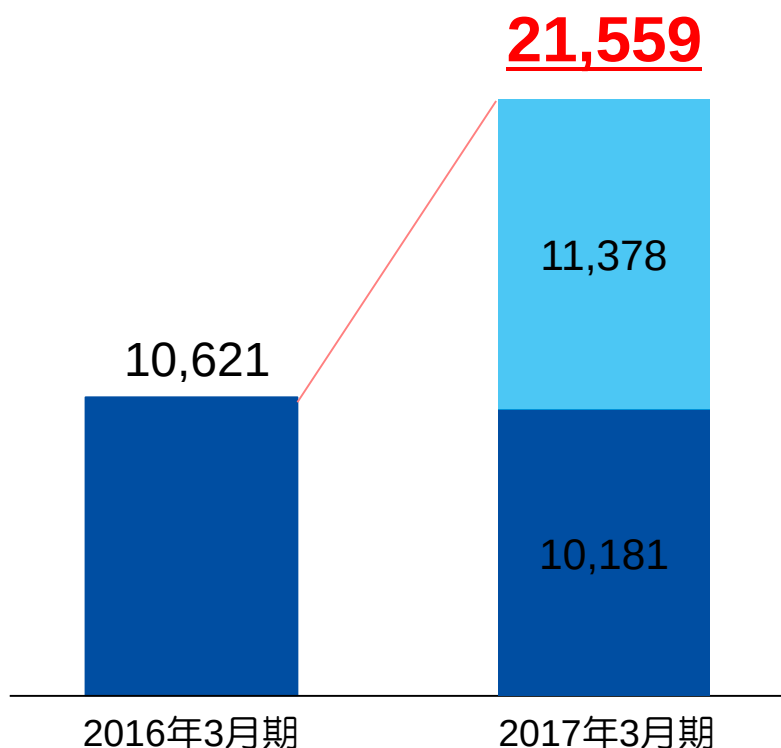
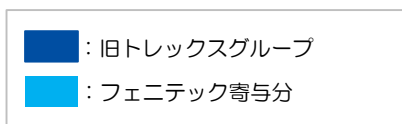
※注：2017年3月期の実績はフェニテックを含む連結の実績です。

(単位：百万円)

科目	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	対前年 増減率(%)	2017年3月期 予想(2/13)	対予想 増減率(%)
売上高	10,621	21,559	+103.0	21,000	+2.7
営業利益	1,139	1,251	+9.8	1,200	+4.3
営業利益率	10.7%	5.8%	▲4.9 pt	5.7%	+0.1 pt
経常利益	970	905	▲6.7	900	+0.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	580	2,930	+405.2	2,900	+1.0
EPS（円）	53.57	302.79	+465.2	—	—
平均為替レート (1\$=)	120.1	108.9	▲9.3	108.3	+0.6
海外売上高比率（*）	70.6%	71.9%	+1.3 pt	—	—
減価償却費	441	1,219	+176.4	—	—
設備投資	602	988	+64.1	—	—

（*）海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)



➤ 旧トレックスグループ

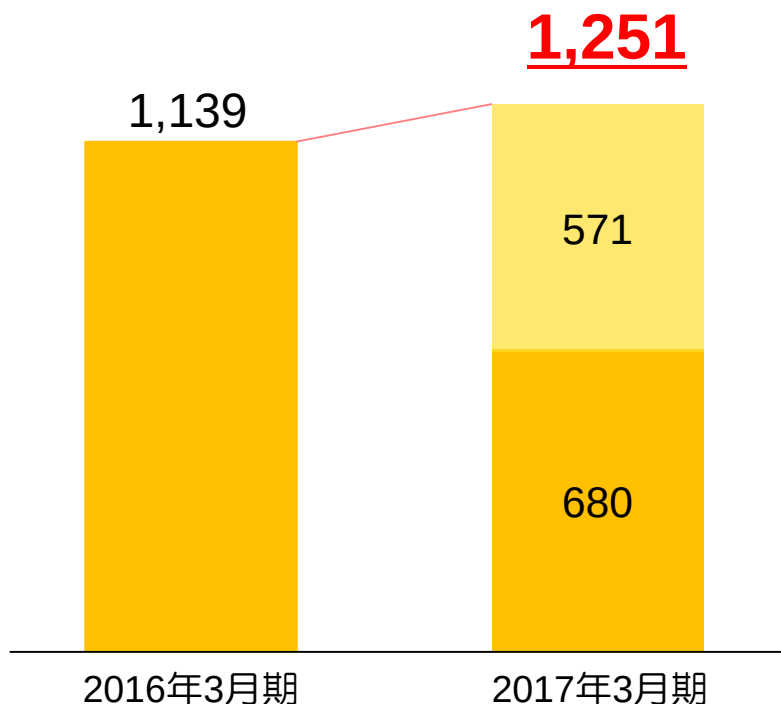
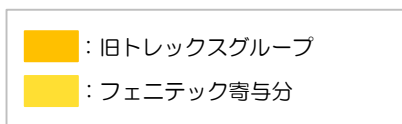
- 前年比で販売数量は微増
- 単価下落を数量増で補えず
- 北米が好調も、アジア圏の下落をカバーできず

➤ フェニテック

- 上期の不調を下期以降の受注好転で挽回
- 売上高は4Q前期比増に回復

科目	2016年3月期	2017年3月期	増減率 (%)
売上高	10,621	21,559	+103.0

(単位：百万円)



➤ 旧トレックスグループ

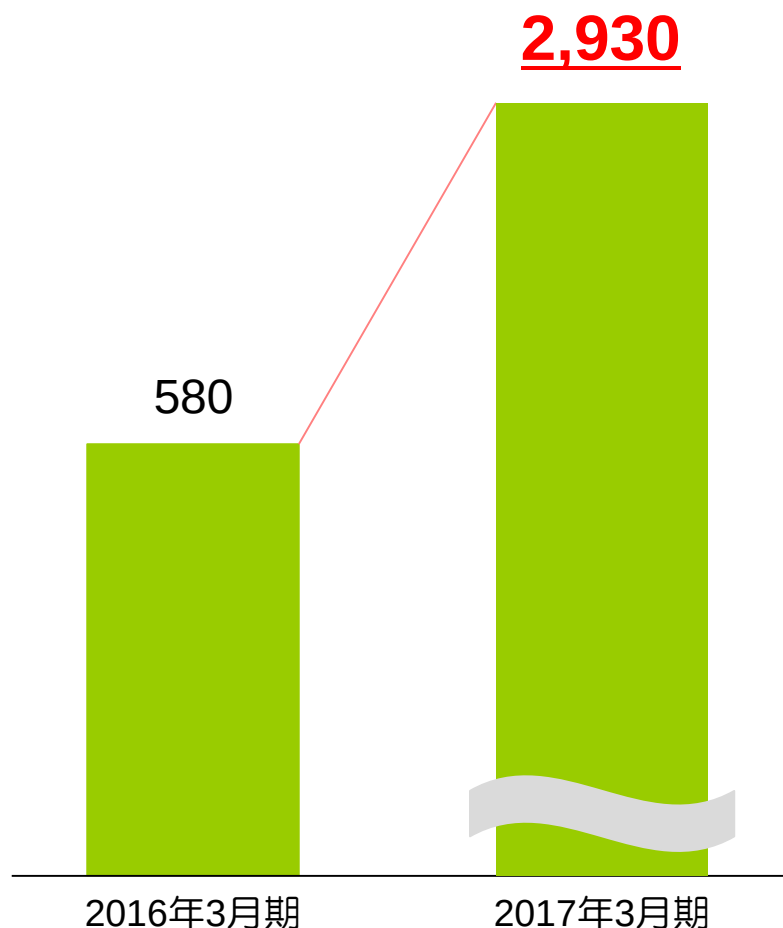
- 為替（円高）の影響で下落
- DC/DCが伸び為替損を補填も前期には届かず

➤ フェニテック

- 売上回復とコスト低減効果で営業黒字に転換
- 稼働率向上により利益率向上

科目	2016年3月期	2017年3月期	増減率（％）
営業利益	1,139	1,251	＋9.8

(単位：百万円)



- 営業外の為替差損は縮小
- 特別損益2,557百万円
 - 負ののれん発生益1,966百万円
 - 受取補償金518百万円
 - 等

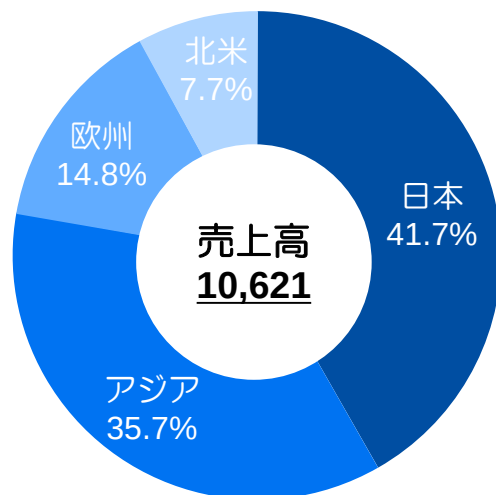
科目	2016年3月期	2017年3月期	増減率 (%)
親会社株主に帰属する当期純利益	580	2,930	+405.2

トレックス・セミコンダクター 連結

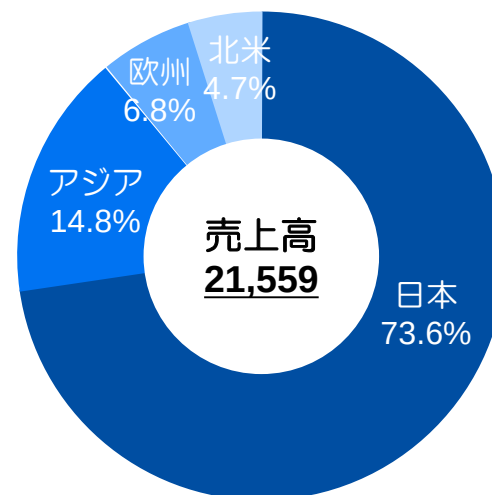
2017年3月期 業績 ～地域別売上高（トレックス・セミコンダクター連結）

TOIREX

TOIREX



2016年3月期



2017年3月期

(単位：百万円)

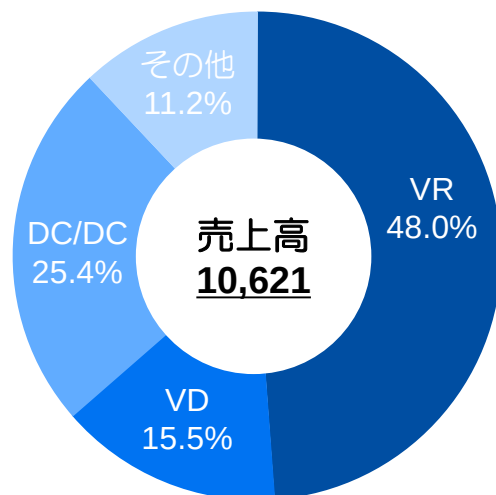
地域 (D-in)	2016年3月期		2017年3月期		前年比
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	売上高
日本	4,429	41.7%	15,867	73.6%	358.3%
アジア	3,797	35.7%	3,198	14.8%	84.2%
欧州	1,575	14.8%	1,471	6.8%	93.4%
北米	818	7.7%	1,022	4.7%	124.9%
平均為替レート (1\$=)	120.1円		108.9円		—

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

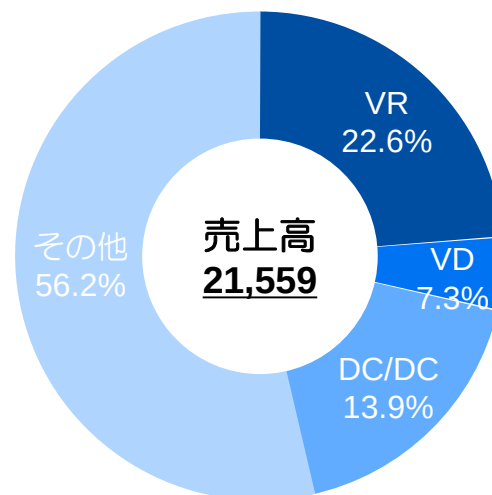
2017年3月期 業績 ～品種別売上高（トレックス・セミコンダクター連結）

TOIREX

TOIREX



2016年3月期



2017年3月期

(単位：百万円)

品種	2016年3月期		2017年3月期		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
V R	5,094	48.0%	4,872	22.6%	95.6%
V D	1,641	15.5%	1,564	7.3%	95.3%
DC/DC	2,694	25.4%	2,997	13.9%	111.2%
その他	1,191	11.2%	12,125	56.2%	1018.1%

トレックス／フェニテック 各単体



- 主に産業機器、車載機器向けの売上が増加しました。

日本

- 産業機器、車載機器分野が増大
- 地域区分の中で一番DC/DCの割合が大きい

アジア

- デジタル家電、ウェアラブル分野が好調、PC分野が低調
- その他（ディスクリット等）の販売が最も多い地域

欧州

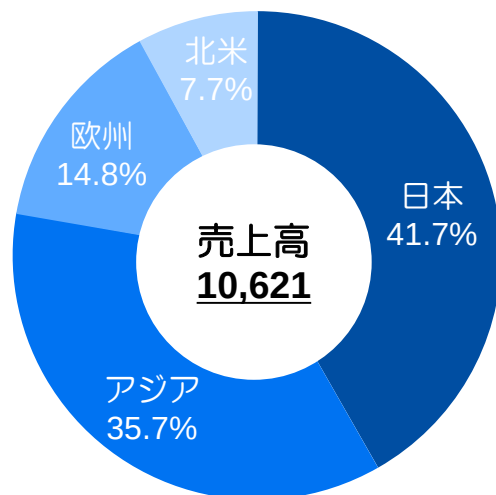
- 産業機器分野が好調、デジタル家電分野が低調
- VRの割合が50%弱

北米

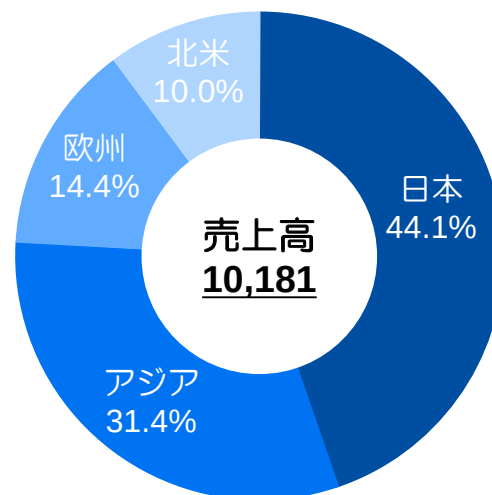
- 産業機器分野が好調で増大、家電機器分野が低迷
- 全ての製品群がバランスよく売れている

2017年3月期 業績 ～地域別売上高（旧トレックスGのみ）

TOIREX



2016年3月期 実績



2017年3月期 実績

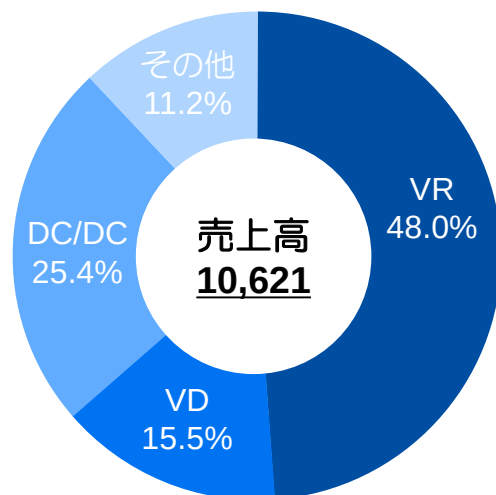
(単位：百万円)

地域（D-in）	2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		前年比
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	売上高
日本	4,429	41.7%	4,489	44.1%	101.4%
アジア	3,797	35.7%	3,198	31.4%	84.2%
欧州	1,575	14.8%	1,471	14.4%	93.4%
北米	818	7.7%	1,022	10.0%	124.9%
平均為替レート（1\$=）	120.1円		108.9円		—

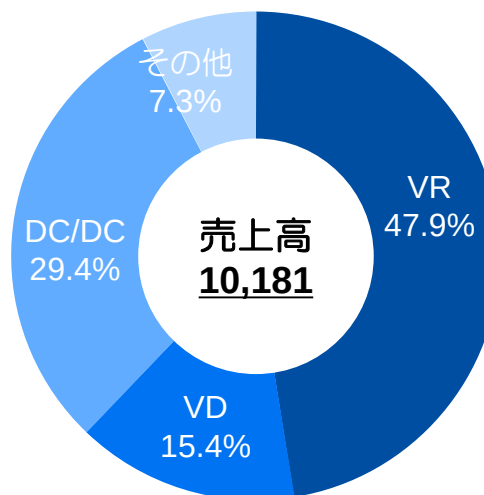
D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2017年3月期 業績 ～品種別売上高（旧トレックスGのみ）

TOIREX



2016年3月期 実績

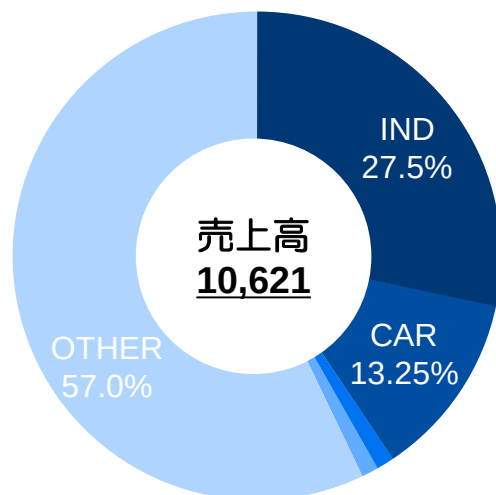


2017年3月期 実績

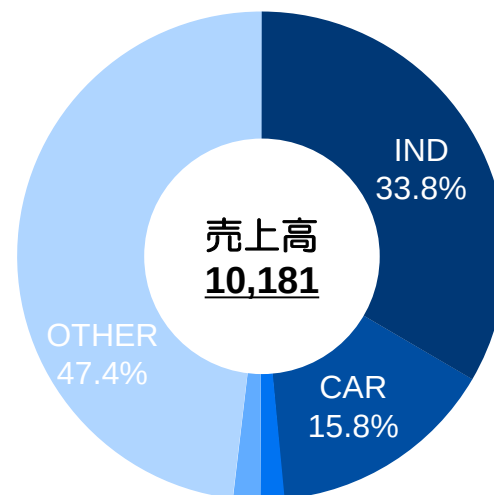
(単位：百万円)

品種	2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
V R	5,094	48.0%	4,872	47.9%	95.6%
V D	1,641	15.5%	1,564	15.4%	95.3%
DC/DC	2,694	25.4%	2,997	29.4%	111.2%
その他	1,191	11.2%	747	7.3%	62.7%

TOIREX



2016年3月期 実績



2017年3月期 実績

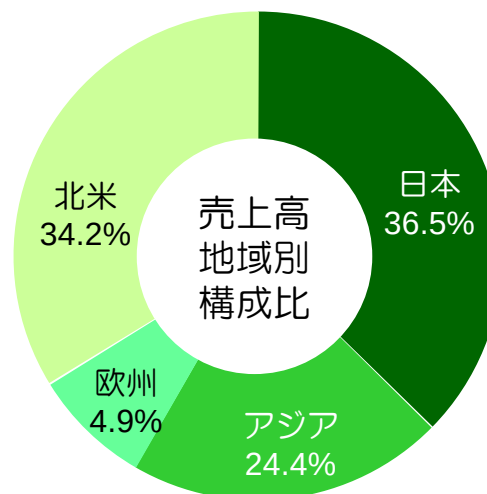
(単位：百万円)

アプリケーション		2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
IND	産業機器	2,917	27.5%	3,444	33.8%	118.1%
CAR	車載機器	1,428	13.5%	1,608	15.8%	112.6%
MED	医療機器	96	0.9%	106	1.0%	110.4%
WEA	ウェアラブル機器	120	1.1%	197	1.9%	164.2%
OTHER	その他機器	6,054	57.0%	4,824	47.4%	79.7%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2017年3月期 業績 ～地域別売上高（フェニテックのみ）

PHENITEC
SEMICONDUCTOR



2017年3月期 実績

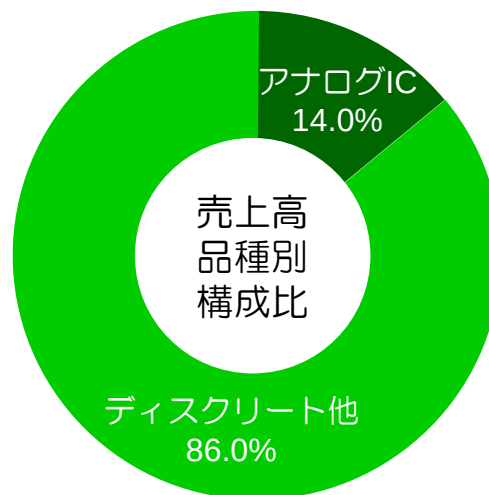
※ 顧客の所在地別に区分しています。 (単位：百万円)

地域（顧客）	2017年3月期 実績	
	売上高	構成比
日本	4,690	36.5%
アジア	3,140	24.4%
欧州	630	4.9%
北米	4,390	34.2%
平均為替レート（1\$=）	108.9円	

日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2017年3月期 業績 ～品種別売上高（フェニテックのみ）

PHENITEC
SEMICONDUCTOR



2017年3月期 実績

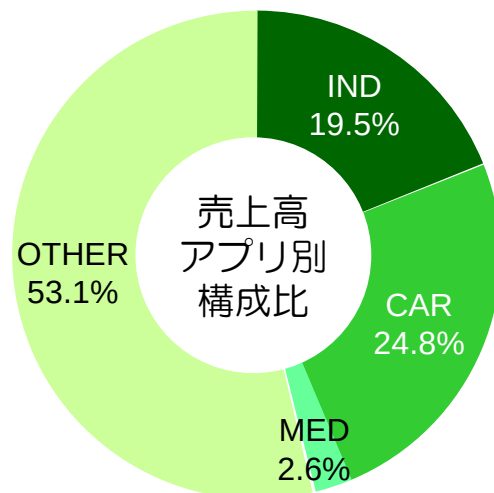
(単位：百万円)

品種	2017年3月期 実績	
	売上高	構成比
アナログIC ※1	1,800	14.0%
ディスクリート他 ※2	11,050	86.0%

※1 バイポーラ, CMOSを含む

※2 IGBT, PMOS, その他ディスクリート等を含む

トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

PHENITEC
SEMICONDUCTOR

2017年3月期 実績

(単位：百万円)

アプリケーション		2017年3月期 実績	
		売上高	構成比
IND	産業機器	2,510	19.5%
CAR	車載機器	3,190	24.8%
MED	医療機器	330	2.6%
OTHER	その他機器	6,820	53.1%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

(単位：百万円)

科目	2016年3月期末	2017年3月期末	対前期末増減率 (%)
資産	12,972	25,209	+94.3
負債	2,043	9,611	+370.4
純資産	10,928	15,597	+42.7

＜参考＞キャッシュ・フロー関連指標の推移

科目	2016年3月期末	2017年3月期末	対前期末増減率
有利子負債	13	6,222	+47761.5%
自己資本比率	83.9%	45.3%	▲38.6pt
D/Eレシオ	0.00	0.56	+0.56

2018年3月期 取り組み

- ▶ 重点アクション
- ▶ 名古屋営業所開設による中京地区ビジネス強化
- ▶ フェニテックとのシナジー発揮
- ▶ 2019年3月期－2021年3月期 中期計画作成

関西技術センター

- 車載製品の開発
- 品質向上のための製品解析サポート

トレックスUSA デザインセンター

- 米国チップセットメーカーへ製品開発アプローチ
- 新規技術の開発

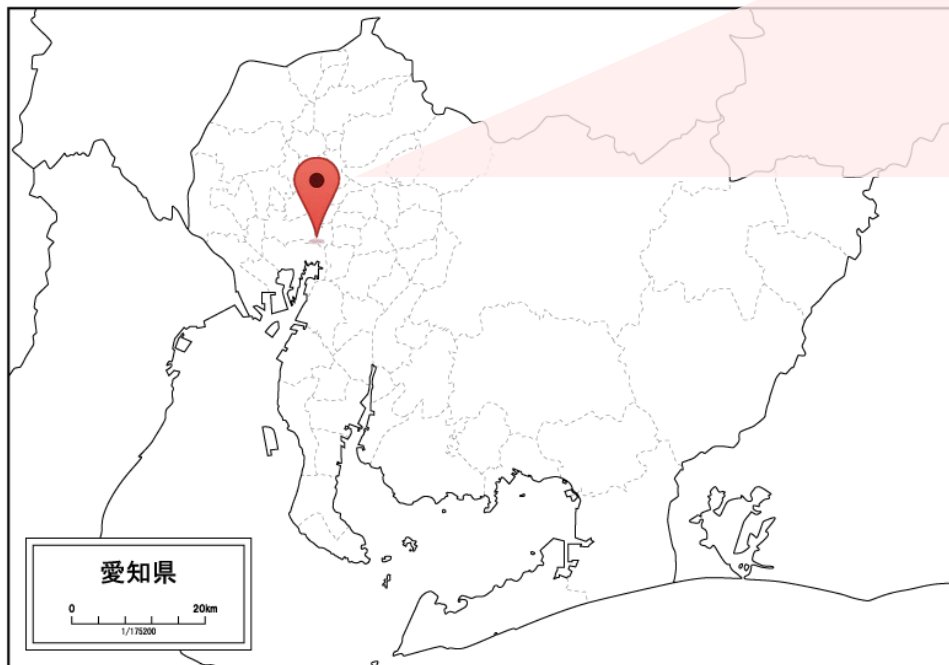
車載向け製品のラインナップ拡充

- 中耐圧／大電流／小型化 製品の開発
- XCLシリーズの車載向け製品の開発

“micro-DC/DC” 製品・生産体制の強化

- 新構造のパッケージ
- 生産工場の安定の確保

- 中京地区におけるビジネス強化・拡充のため、地域に密着した営業・技術サポートが行なえるよう開設しました。



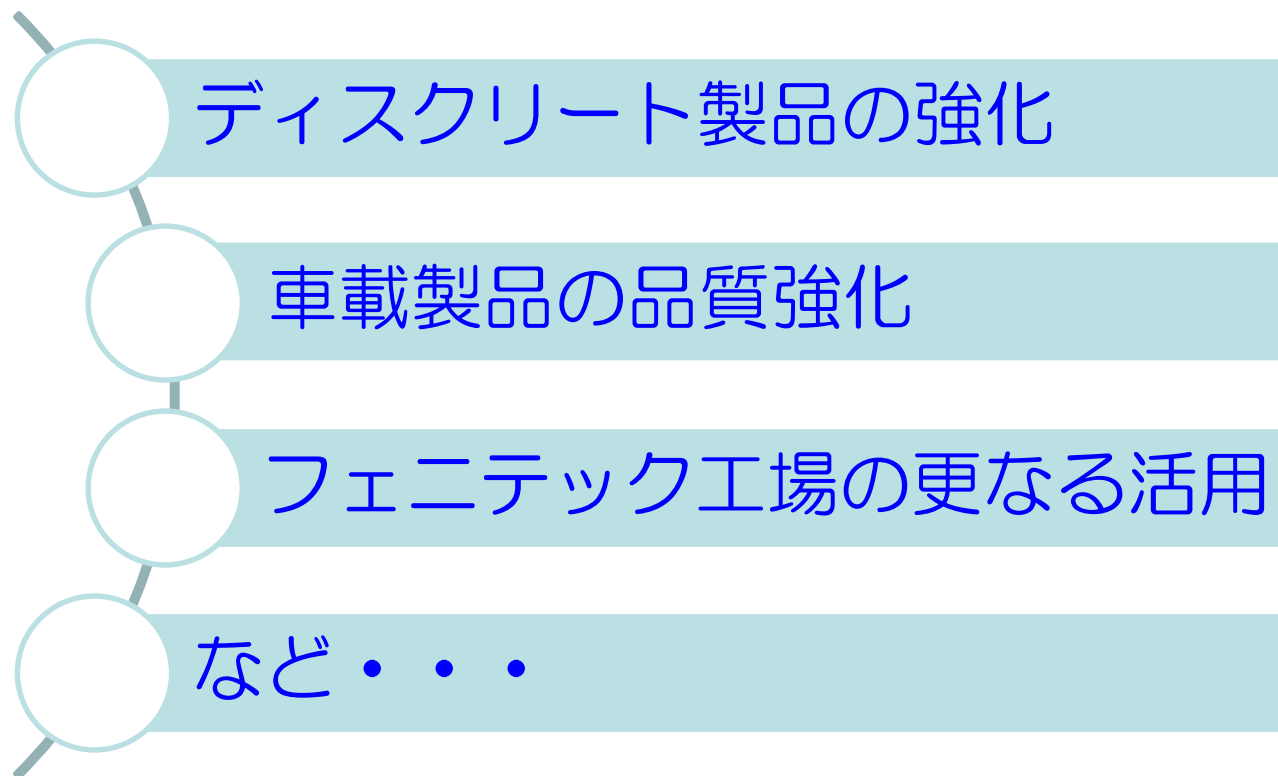
名称	名古屋営業所
所在地	愛知県名古屋市中区丸の内2丁目17番13号 NK丸の内ビル6階
開設年月	平成29 年6月1日 予定

狙い

名古屋営業所の開設は、中京地区における車載機器・産業機器・アミューズメントビジネスの強化・拡充のため、地域に密着した営業・技術サポートの展開を図り、営業基盤のより一層の強化を目的とするものです。また、昨年5月に開設した関西技術センターと連携し、開発・営業・品質管理の三位一体でお客様のニーズに即した高品質なサポートを提供してまいります。

フェニテックとのシナジー効果を発揮すべく、特に重要ポイントを再設定を行い、実行していきます。

中期計画と連携し、効果を確実なものにしていきます。



連結子会社であるフェニテックセミコンダクター（株）の谷新社長（6月9日交代予定）体制と共に、2019年3月期からの3カ年中期計画を策定します。

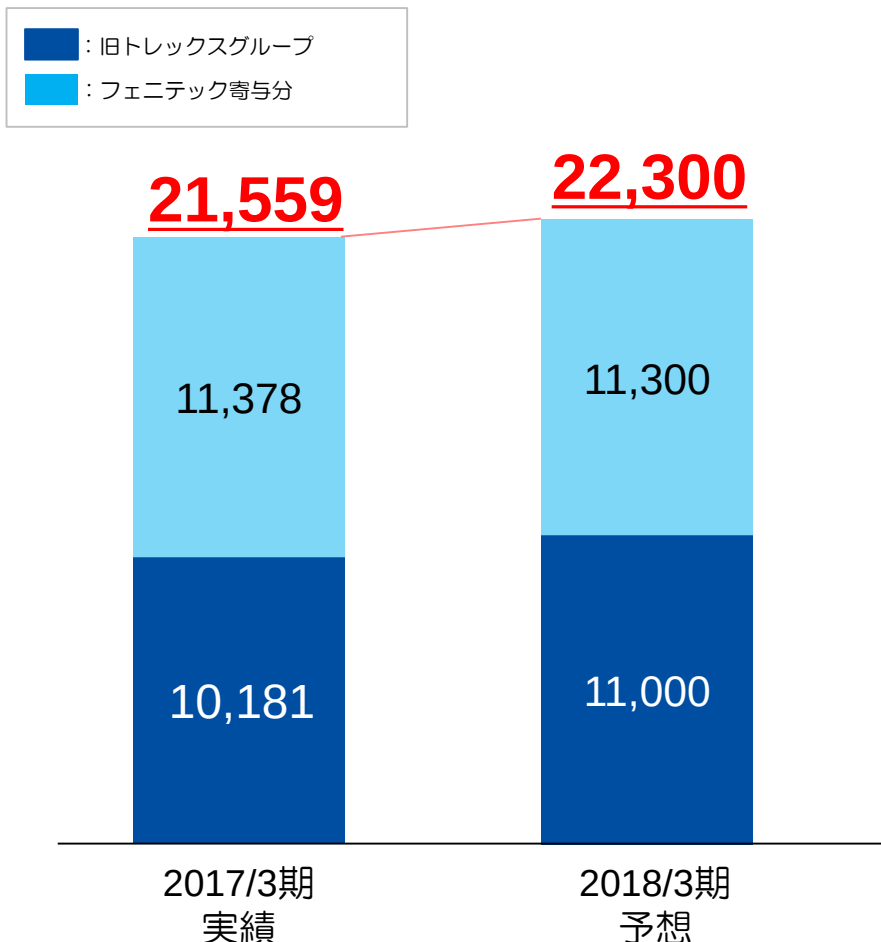
2018年3月期 業績予想

(単位：百万円)

科目	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期予想	対前年増減率 (%)
売上高	21,559	22,300	+3.4
営業利益	1,251	1,400	+11.9
営業利益率	5.8%	6.3%	+0.5 pt
経常利益	905	1,300	+43.6
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,930	750	▲74.4
EPS (円)	302.79	77.49	▲74.4
海外売上高比率 (*)	71.9%	67.6%	▲4.3 pt
平均為替レート (1\$=)	¥108.9	¥110.0	-
減価償却費	1,219	1,131	▲6.0
設備投資	988	1,257	+27.2
ROE	26.3%	6.3%	▲20.0pt

(*) 海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)



➤ 旧トレックスグループ

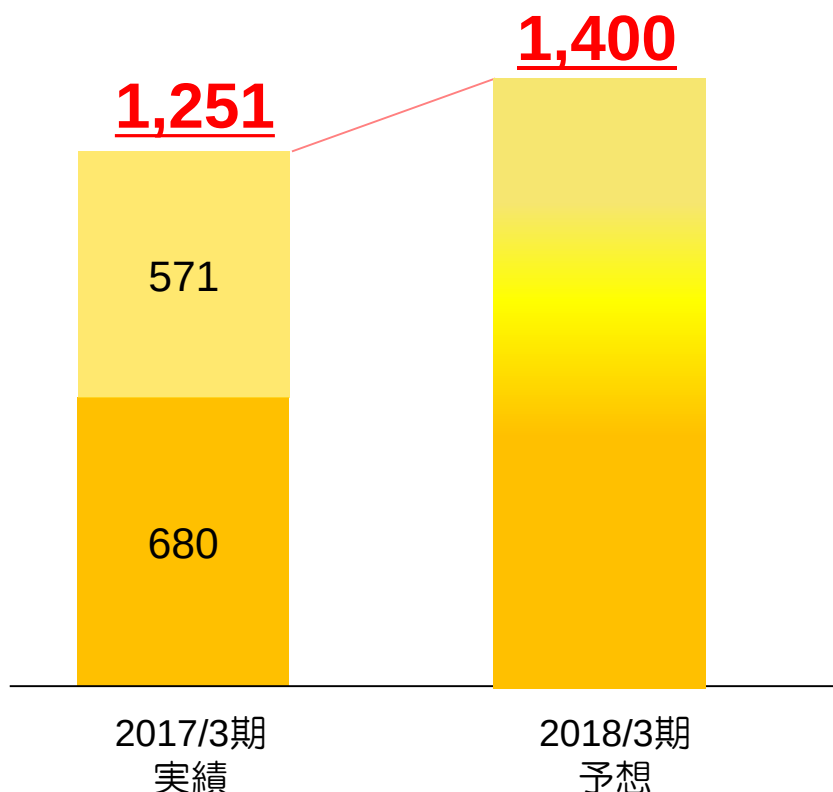
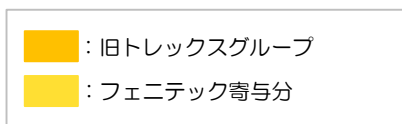
- 重点分野（産・車・医）は堅調に増の見通し
- PCやAV等向けが低調
- 欧州・アジアが回復

➤ フェニテック

- 2018年3月期前半は、国内・北米が堅調な見通し
- 後半は慎重な見積もり

科目	2017年3月期 実績	2018年3月期 通期予想	増減率 (%)
売上高	21,559	22,300	+3.4

(単位：百万円)



➤ 旧トレックスグループ

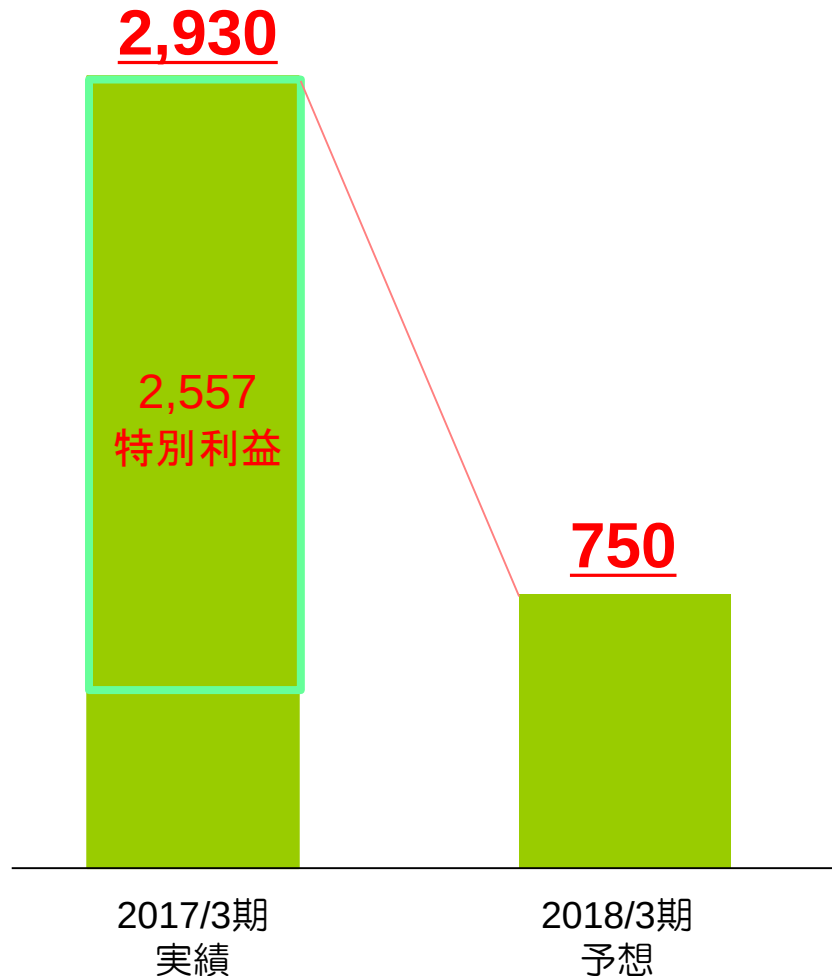
- 高収益分野へのシフトを加速
- 増収に伴う増益見込み

➤ フェニテック

- 受注回復による稼働率アップで収益性が向上
- 日本・北米向けが堅調
- 後半は慎重な見積もり

科目	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期予想	増減率 (%)
営業利益	1,251	1,400	+11.9

(単位：百万円)



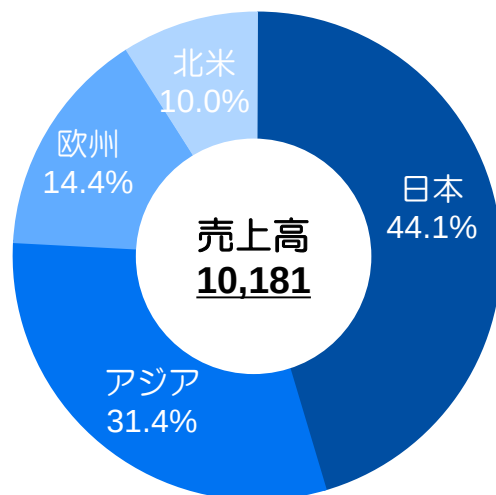
2017年3月期は、フェニテック子会社化等による特別利益が発生し大きな利益となったが、あくまで一時利益であり、2018年3月期は、売上増加による営業利益部分で実質、昨年度より増益を予想。

科目	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期予想	増減率 (%)
当期純利益	2,930	750	▲74.4

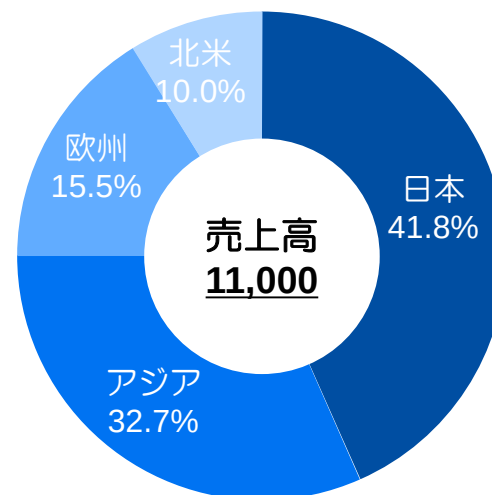
2018年3月期 業績予想 内訳

2018年3月期 業績予想 ～地域別売上高（旧トレックスGのみ）

TOIREX



2017年3月期 実績



2018年3月期 予想

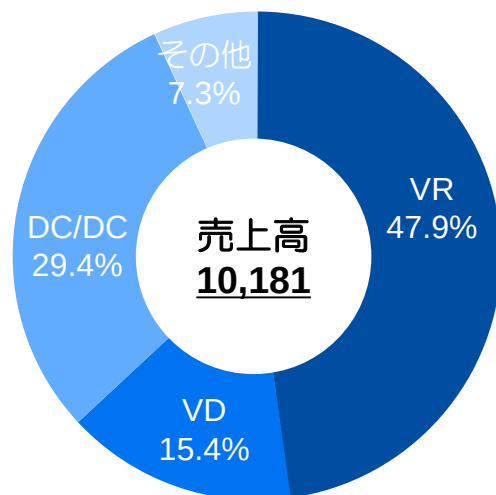
(単位：百万円)

地域 (D-in)	2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前年比
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	売上高
日本	4,489	44.1%	4,600	41.8%	102.5%
アジア	3,198	31.4%	3,600	32.7%	112.6%
欧州	1,471	14.4%	1,700	15.5%	115.6%
北米	1,022	10.0%	1,100	10.0%	107.6%
平均為替レート (1\$=)	108.9円		110.0円		—

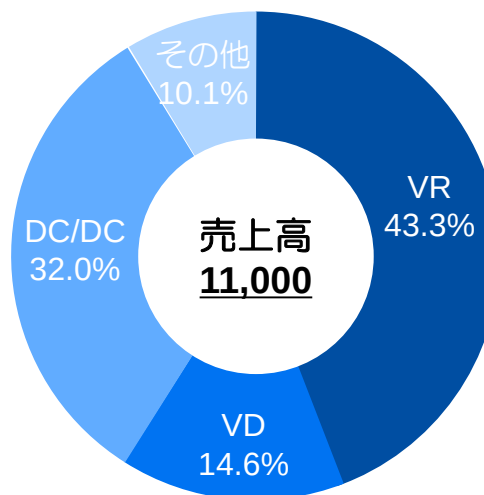
D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2018年3月期 業績予想 ～品種別売上高（旧トレックスGのみ）

TOIREX



2017年3月期 実績



2018年3月期 予想

(単位：百万円)

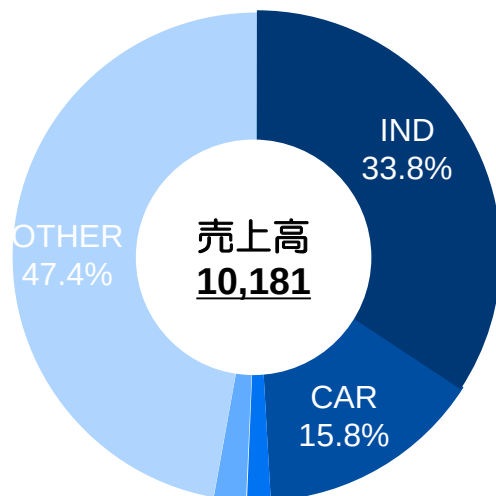
品種	2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
V R	4,872	47.9%	4,760	43.3%	97.7%
V D	1,564	15.4%	1,610	14.6%	102.9%
DC/DC	2,997	29.4%	3,520	32.0%	117.5%
その他	747	7.3%	1,110	10.1%	148.6%

2018年3月期 業績予想

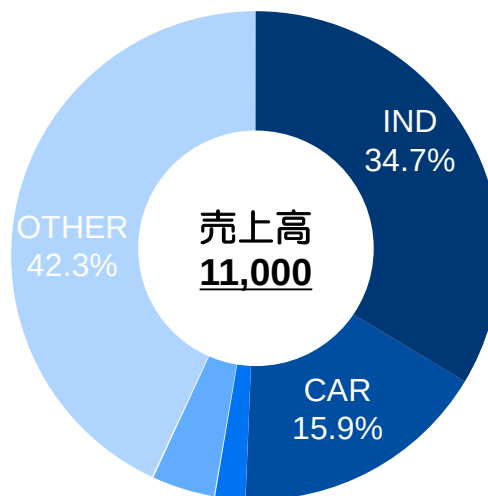
～アプリケーション別売上高（旧トレックスGのみ）：参考値

TOIREX

TOIREX



2017年3月期 実績



2018年3月期 予想

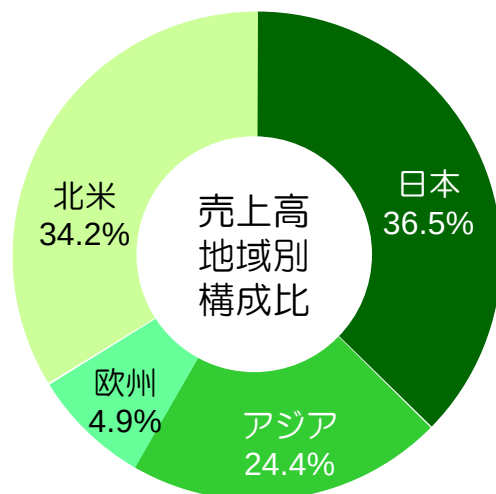
(単位：百万円)

アプリケーション		2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
IND	産業機器	3,444	33.8%	3,820	34.7%	110.9%
CAR	車載機器	1,608	15.8%	1,750	15.9%	108.8%
MED	医療機器	106	1.0%	150	1.4%	141.5%
WEA	ウェアラブル機器	197	1.9%	630	5.7%	319.8%
OTHER	その他機器	4,824	47.4%	4,650	42.3%	96.4%

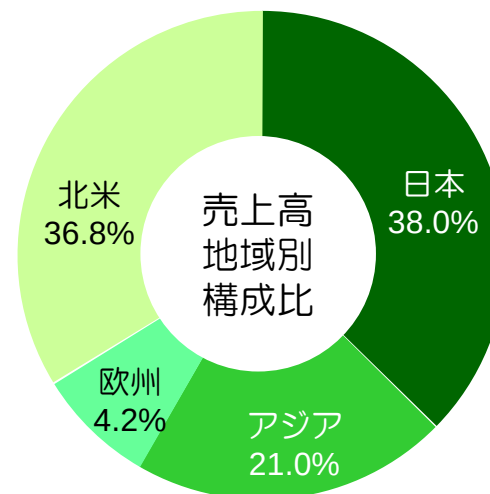
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2018年3月期 業績予想 ～地域別売上高（フェニテックのみ）

PHENITEC
SEMICONDUCTOR



2017年3月期 実績



2018年3月期 予想

※ 顧客の所在地別に区分しています。

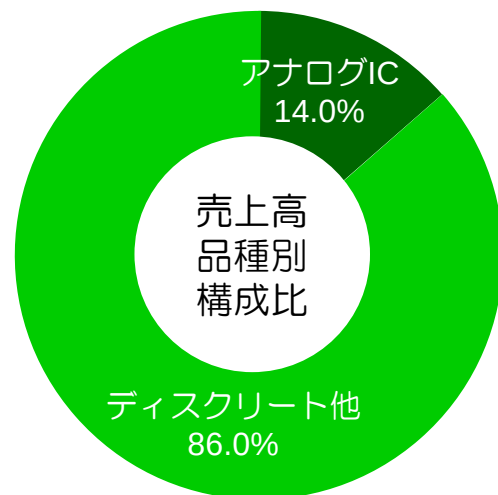
(単位：百万円)

地域（顧客）	2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
日本	4,690	36.5%	4,970	38.0%	105.9%
アジア	3,140	24.4%	2,750	21.0%	87.6%
欧州	630	4.9%	550	4.2%	87.9%
北米	4,390	34.2%	4,810	36.8%	106.9%
平均為替レート（1\$=）	108.9円		110.0円		—

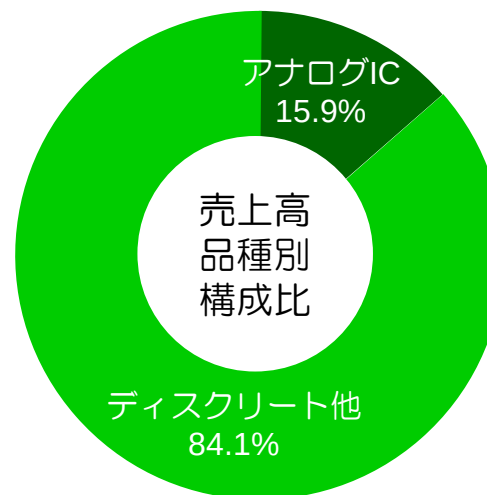
日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2018年3月期 業績予想 ～品種別売上高（フェニテックのみ）

PHENITEC
SEMICONDUCTOR



2017年3月期 実績

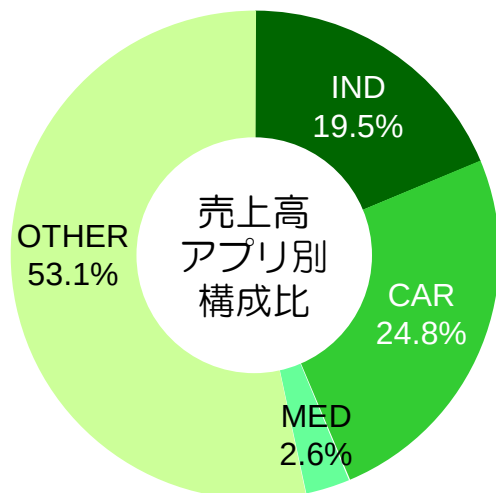


2018年3月期 予想

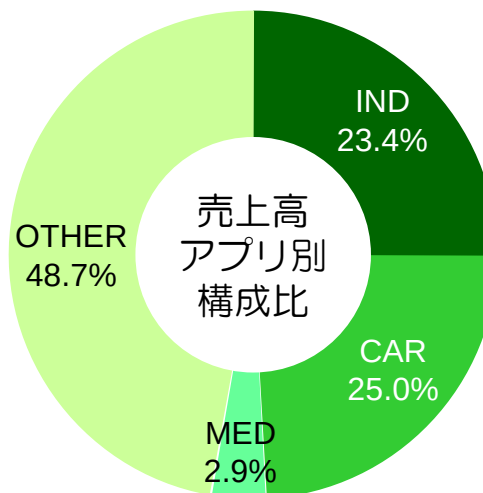
(単位：百万円)

品種	2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
アナログIC	1,800	14.0%	2,080	15.9%	115.6%
ディスクリート他	11,050	86.0%	11,000	84.1%	99.5%

トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

PHENITEC
SEMICONDUCTOR

2017年3月期 実績



2018年3月期 予想

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

(単位：百万円)

アプリケーション		2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
IND	産業機器	2,510	19.5%	3,060	23.4%	121.9%
CAR	車載機器	3,190	24.8%	3,270	25.0%	102.5%
MED	医療機器	330	2.6%	380	2.9%	115.2%
OTHER	その他機器	6,820	53.1%	6,370	48.7%	93.3%

トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

株主還元

戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元の拡充として株主資本配当率（DOE）3%程度を当面の目標として実施してまいります。

	1株当たり配当金		
基準日	第2四半期末	期末	年間
前期実績	16円00銭	16円00銭	32円00銭
今期 配当予想	16円00銭	16円00銭	32円00銭

当社は、平成28年11月28日に子会社フェニテックセミコンダクターが保有する当社株式の全て176万株を取得いたしました。

上記の取得株式のうち116万株を平成28年11月30日に消却いたしました。

平成29年3月末現在における当社の発行済株式総数は9,539,200株であります。

これからのトレックス

これまでの事業

超小型・省電力
電源ICの
開発・販売



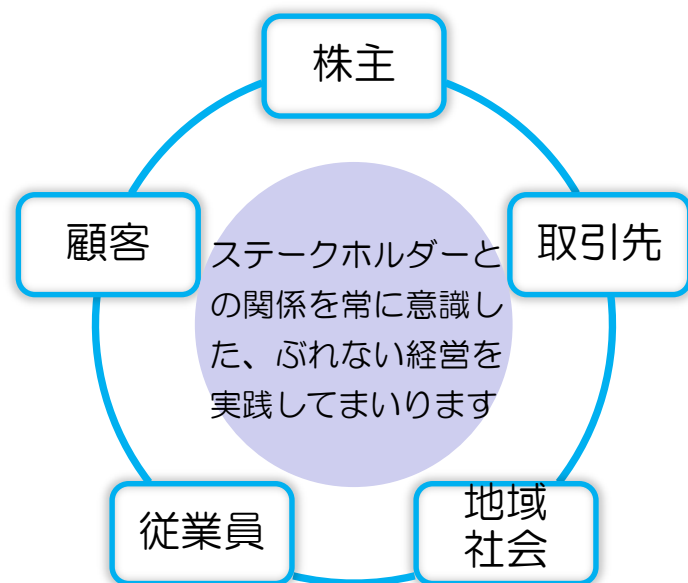
フェニテック

半導体（ウェハー）
の製造・販売

私たちの目指す姿、取り組むべき課題は不変です。

企業理念

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄する。



ステークホルダーとの関係を尊重し、
世界に存在感のある企業を目指します。

取り組むべき課題

集中 攻略

当社グループの強みを活かせる成長性の高い市場として、産業機器・車載機器・医療機器の市場を集中的に攻略する

差別化

当社グループの技術力及びノウハウを結集し、技術ロードマップに基づいた「強み」の強化と拡張を図り、差別化された特長のある製品を創造する

総合力

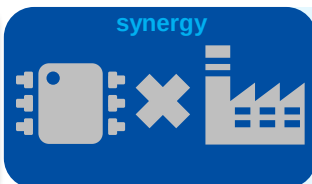
当社グループの企画・開発・購買・生産・品質・販売に係るリソースの緊密な連携を図り、低コスト・高品質の製品を安定供給することを通じて、顧客へ提供する付加価値を高める

戦略的 提携

戦略的提携を活用して新たな基盤技術や生産技術を積極的に取り込む

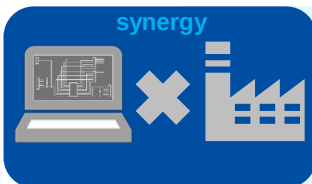
グループ全体でシナジー効果を発揮し、競争力と収益力の向上を目指します。

差別化



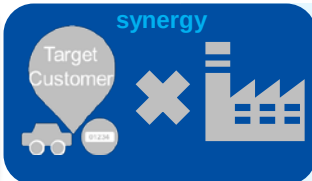
フェニテックの各種製品カテゴリーに関わる技術・知見やオリジナル製品を加えて、両社が協力して開発・販売に取り組むことによって、お客さまへご提供する付加価値を高めてまいります。

総合力



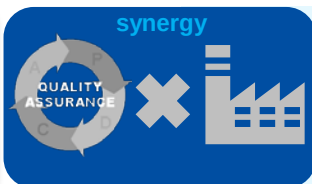
新製品の企画段階から、両社間で製造方法や生産管理手法を含めた協力体制を敷き、開発から製造までを効率よく進めることによって、お客さまへタイムリーに製品をお届けしてまいります。

集中攻略



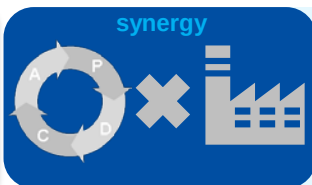
今後当社が開発する産業機器・車載機器向け製品に要する基礎技術の開発、製造キャパシティの整備を協同して進めてまいります。

総合力



両社の保有する品質管理に関わる技術・設備・ノウハウを持ち寄り、各種の認証制度に的確に対応した品質管理・保証体制の強化を図ってまいります。

総合力



重複する工程や設備投資等を洗い出し、投下資金の効率化を図ってまいります。

本資料に記載された内容は、2017年5月17日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。

Appendix

会社紹介

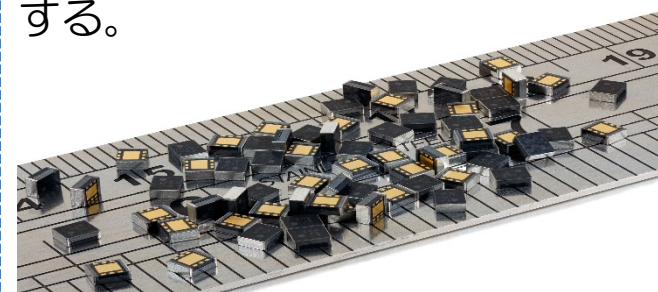
2014年4月にJASDAQスタンダード市場に上場、その1年後の2015年10月に東証二部に市場変更した、創業21年の半導体メーカーです。

アナログのチカラ

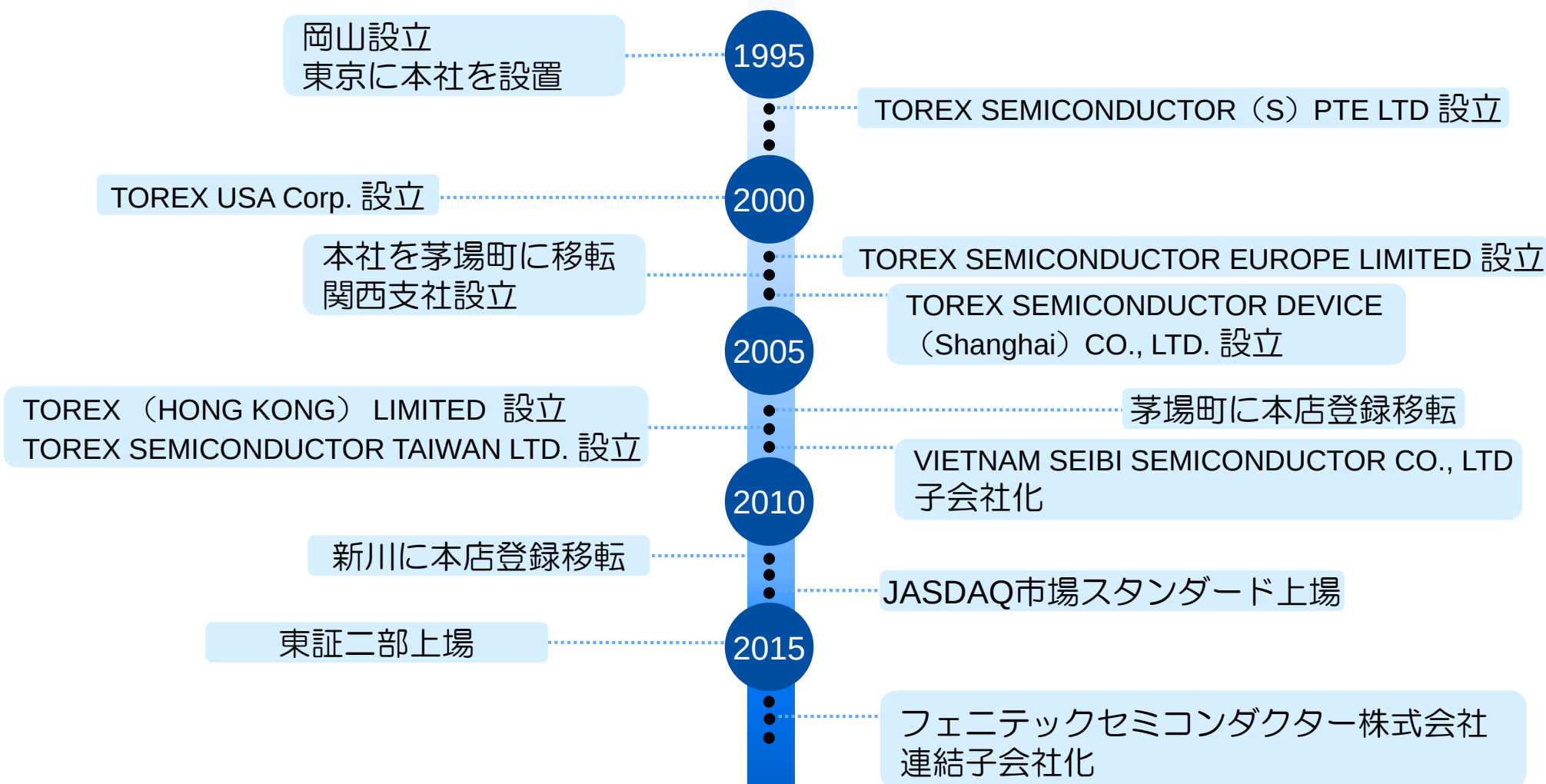
ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 エゾ 新川永代通りビル
代表者	代表取締役会長 藤阪 知之 代表取締役社長 芝宮 孝司
資本金	18億3817万円（2016年12月31日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：164名 / グループ：1,000名
上場証券取引所 及び上場日	東京証券取引所 市場第二部 2015年10月15日
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



- 電源IC一筋、**省電力・小型化**の技術でエレクトロニクス産業技術の発展に貢献してきました



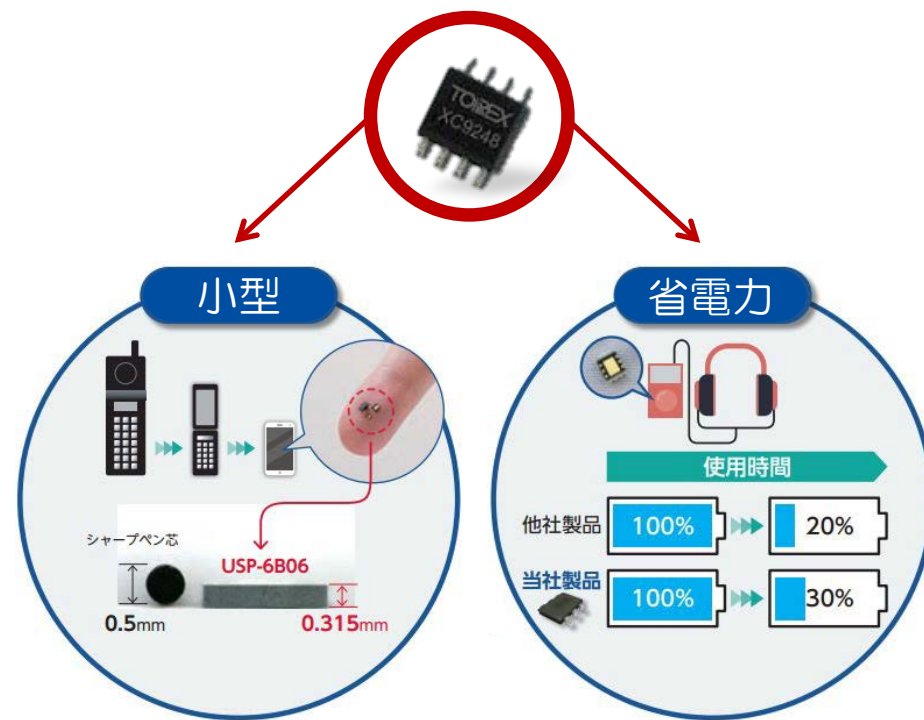
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

TOREXの電源IC

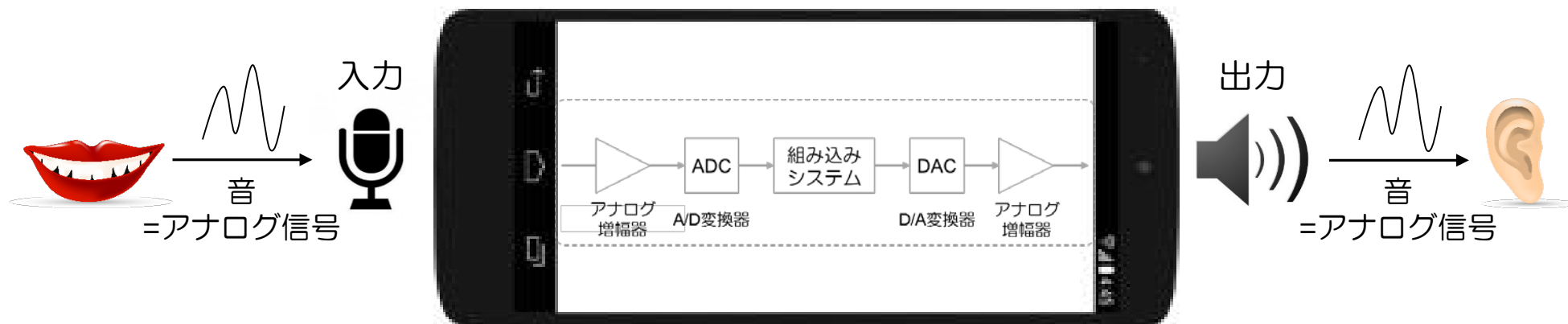


独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

- デジタル時代といわれている今でも、なくてはならない存在であるアナログ電源ICに特化しています。

音、温度、電気、磁気、圧力など等、自然界の信号は全てアナログです。デジタル機器の中にも必ずアナログの半導体が搭載されており、デジタル化がどれだけ進んでも、アナログがなくなることは有り得ません。

例) スマートフォンの通話機能



内部はデジタルでも入出力はアナログ

- 国内に東京本社を含む7拠点、海外6カ国に8つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること

